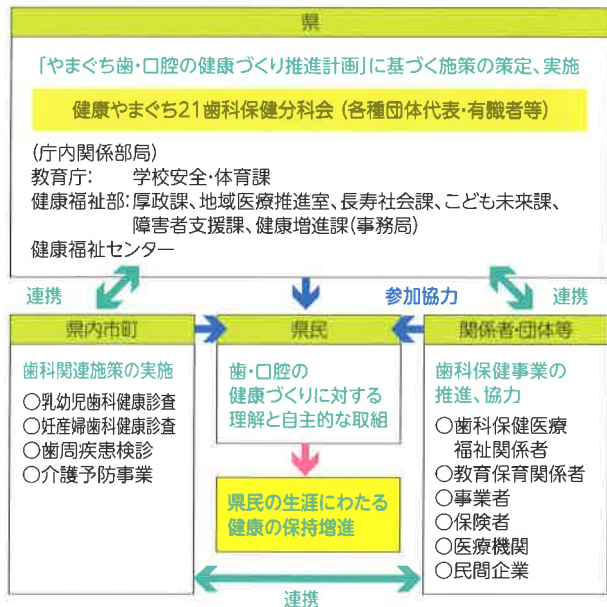


# 計画の推進体制について

県、市町、歯科保健医療関係者が連携のもと、それぞれの役割を果たしながら、歯・口腔の健康づくりを推進していきます。



県民一人ひとりが歯・口腔の健康づくりの重要性を理解し、自ら責任を持って行動するとともに、県、市町をはじめとした関係機関が協働して、生涯を通じた歯・口腔の健康づくりに取り組むことが大切です。

## ■目標値(抜粋)

項目名	現状値(H22)	目標値(H34)	
う蝕の無い者の増加	3歳児	76.0%(※)	90.0%
	12歳児	54.1%	65.0%
歯肉に所見を有する者の減少	小学生	11.7%(※)	10.0%
	中学生	24.4%(※)	20.0%
	高校生	66.7%	40.0%
	20歳代	55.2%	40.0%
進行した歯周炎を有する者の減少	40歳代	35.4%	25.0%
	60歳代	42.0%	35.0%
過去1年間に歯科検診を受けている者の増加(20~64歳)	27.8%	65.0%	
自分の歯を有する者の増加	60歳で24本以上	69.6%	75.0%
	80歳で20本以上	28.9%	50.0%

(※: H23)



# やまぐち 歯・口腔の健康づくり 推進計画 (ダイジェスト版)



平成25年3月に山口県の歯科健康推進計画(やまぐち歯・口腔の健康づくり推進計画)を策定しました。

山口県健康福祉部健康増進課

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/index/>

やまぐち歯・口腔の健康づくり推進計画全文がダウンロードできます。



# 歯科計画

目標の達成に向け、4つの方針を立て計画を策定し、2方向から取組を進めます。

## 【計画の基本的方針】

- 1 う蝕や歯周病等の歯科疾患の予防**  
→ 予防方法の普及啓発など一次予防に重点を置いた対策を推進します。
- 2 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上**  
→ 摂食・嚥下（えんげ）等の口腔機能の維持向上の取組を推進します。
- 3 定期的な歯科検診の受診**  
→ 歯・口腔の健康状態の把握と、自分に合った口腔ケアを促進します。
- 4 歯科保健医療体制の基盤整備**  
→ 等しく適切な歯科保健医療サービスの利用が可能な環境の整備に努めます。

## 【取組】

### > ライフステージ毎の取組

（胎児期・乳幼児期・学齢期・成人期・高齢期）

### > 特に配慮を要する者と分野への取組

（妊産婦・障害児者・要介護者・中山間地域・生活習慣病）

# ライフステージ

生まれる前から最期の時まで、一生涯を通じた歯・口腔の健康が生活を支える基盤となります。年齢に応じて、各段階の特徴にあわせた取組が必要です。

**胎** 児期の早いうちに、歯や顎の骨は形作られます。必要な知識と健康づくりのために、妊産婦歯科健康診査、妊産婦歯科保健指導等を受けましょう。

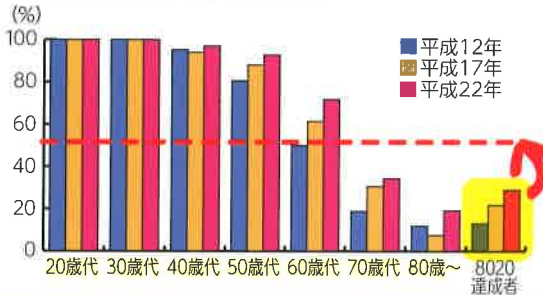
**乳** 幼児期は、歯が生えだしますが、自分で歯磨きができないので保護者の仕上げ磨きが必須です。山口県の3歳児の平均歯数は1本以下（0.85）、1本も虫歯のない者が全体の75%以上を占めます。

**学** 齢期は虫歯のある者は5～6割であり、一層の改善が必要ですが、中高生の歯肉の腫れなどの増加も指摘されています。

**成** 人期での取組は個人差が大きいのが特徴ですが、歯肉の症状がある者の割合は20、30歳代でも半数以上、40歳代以降は70～80%と高割合です。虫歯と歯周病の予防が、8020達成に必要です。

**高** 齢期では摂食・嚥下（ものを食べ、飲み込む）能力を維持することが重要ですが、そのためには口や顎の周りの筋肉を鍛え、機能を維持するには日頃しっかり咬んで食事を行うことが大切です。

■ 20本以上の歯を有する者の割合



8020（はちまるにいまる）とは、80歳まで自分の歯を20本以上保とうとする取組です。平成22年時点で山口県達成率は28.9%、平成34年（10年後）の目標は50%です。

# 特に配慮を要する者と分野

それぞれに特徴的な対応が必要であり、歯科検診・指導を組み込む事が大切です。

**妊** 産婦は、妊娠により自身の口腔内が変化してう蝕や歯周病リスクが高まります。さらに、胎児および出生後の乳児への健康づくりの取組も必要となります。

**障** 害児者は個人差はありますが歯科保健の取組が困難な場合が多いため、個人の状態に合わせた対応が必要です。

**要** 介護者は口腔機能の低下が更なる全身健康状態の悪化に繋がることも多く、摂食嚥下機能の維持向上に向けた口腔ケアが有効です。

**中** 山間地域を含めた県内全域で、必要な歯科保健医療サービスを提供できるような連携体制の強化が必要です。

**生** 活習慣病と歯周病とは深い関連があることが分かっています。全身の健康を維持向上させ、より良い生涯を送るためにも定期的に歯科検診を受診しましょう。

■ 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合（20歳～）



年1回以上、定期的に歯科検診を受診している人は、平成22年時点で27.7%に止まっています。平成34年（10年後）の目標は65%です。

**目標** 歯・口腔の健康づくりの推進による  
県民の生涯にわたる健康の保持増進

お口いきいき  
笑顔と健康は  
いい歯から

- 方針**
- 1 う蝕や歯周病等の歯科疾患の予防
  - 2 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上
  - 3 定期的な歯科検診の受診
  - 4 歯科保健医療体制の基盤整備

- 取組**
- ライフステージ毎の取組  
胎児期・乳幼児期・学齢期・成人期・高齢期
  - 特に配慮を要する者と分野への取組  
妊産婦・障害児者・要介護者・中山間地域・生活習慣病